

Eiche

Die Eiche ディ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-681 ワールドナーシングホーム内

Phone: 047-467-6111 Fax: 047-467-6123

第10回 慰霊祭開催



ゲーペル武官



平尾会長

恒例の慰霊祭は、秋晴れの11月21日(日)11時より、会員・知人約60名を集めて習志野霊園にて举行された。国枝誠昭副会長の開会挨拶の後、例年のとおりドイツ国歌がテープで流され全員黙祷。追悼・慰霊の辞は、ヘルムート・ゲーペルドイツ国防武官(下記)、平尾浩三会長、山田明船橋市長代理、荒木勇習志野市長が述べられた。続いて橋口昭八常任理事が30柱の御霊を紹介し、皆でドイツの軍人葬送歌「よき仲間」を合唱。最後に参列者全員で墓前に献花し記念の写真撮影を行なった。

その後、事前に申し込みのあった希望者が自衛隊習志野空挺師団内の幹部食堂に集まり直会が行なわれた。平尾会長、ゲーペル武官(通訳は会員の堀江弘隆君)、自衛隊第1空挺団本部濱本俊夫第一科長の挨拶のあと、石崎満理事の献杯で懇談。

(財)日独協会花井清常務理事より、来年が「日本におけるドイツ2005/6」であると同時にドイツ軍人慰霊碑再建50周年にあたるとの紹介があった。宴後半に会員の大河内ロスウィータさん、二宮一男さんの歌唱指導により「野ばら」「ローレライ」などを合唱して一時半に閉会。なお、閉会の辞を述べていただいた宗宮好和副会長(千葉大教授)から来年10月20日(木)~22日(土)に千葉大学講堂けやき会館にて当協会主催のドイツ年に係る講演会・パネルディスカッション・音楽会・展示会などが実施される旨の紹介が行なわれた。

二〇〇四年 習志野での慰霊祭

ドイツ大使館国防武官・大佐
ヘルムート・ゲーペル

年月は、まるで山を下る溪流のように、私たちのもとを足早に過ぎ去ってゆき、私たちの日々は、あわただしさと、落ち着きのなさに、あふれています。自分自身を振り返る日々、いえ、その一時さえも、なかなかありません。私たちにはそのような日が必要なのです。今日この日、ドイツでは、第二次世界大戦の犠牲者七百万人、第一次世界大戦の犠牲者二百万人、そしてさらには、行方不明となった人々や捕虜となった人々に思いをはせます。今日のこの日は、私たちすべてにとつて、振り返り、思いをはせる日なのです。

私たちは今日、特に、犠牲となった人たちに思いをはせています。感謝と畏敬の念をもって、これらの人たちに思いをはせるのです。ドイツの地に眠る人たちもいますし、ここ習志野のように、異国の地に眠る人たちもいます。ドイツ兵士の墓は、世界五十カ国以上にあります。決して忘れられてはいません。これらの人たちが眠る所を、神聖な場所として残しておくことで、私たちは、亡くなった人々だけでなく、私たち自身にも、敬意を払うことになるのです。

大変な熱意をもって、この墓所維持にご尽力され、また毎年まことに厳かな形で慰霊祭を行ってくださるすべての方々に対して、駐日ドイツ大使になり代わり、厚く御礼を申し上げます。

私たちは、今日ここで、戦争の恐ろしさについて、思いをめぐらせています。亡くなったり、傷ついたりした人たちの姿が、私たちの心に浮かんできます。燃えさかる町や村も見えます。しかしまた、私たちの心の奥底では、犠牲となった人々が発する警告の声が響いています。

その声に私たちは耳を傾けています。これらの人たちが、私たちに何を語りかけているのか、よくわかっています。私たちは、その遺志を受け継ぎ、平和のために力の限りを尽くすつもりです。今日ここに、亡くなった人々への敬意をこめて、世界の平和のために全力をつくすことを、私たちの特別の誓いと致します。

これらの人たちは、私たちに平和の尊さを教えています。皆様とともに、黙祷をささげたいと思います。

～今後の主な催物案内～

▶ 新春講演会

日時：1月29日(土) 14:30～18:00

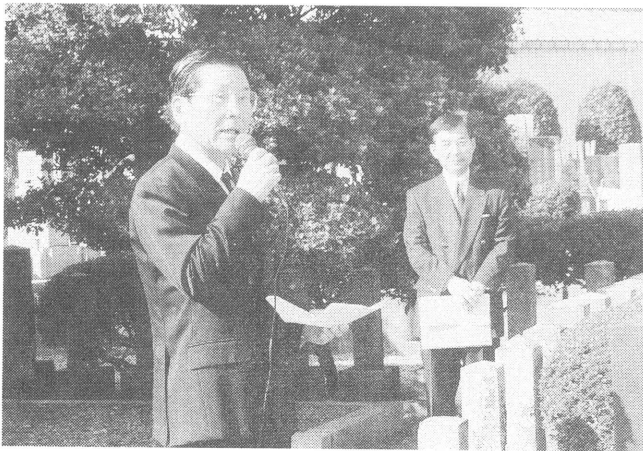
演題：「2005年の国際情勢」

講師：田久保忠衛 杏林大学客員教授

場所：喫茶「サン」 JR 総武線西千葉駅前
プラザホテル1階(TEL; 043-245-1255)

会費：2,500円

荒木習志野市長



慰霊祭参加の皆さん



直会で挨拶するゲーベル大佐(通訳は堀江君)
前列右より宗宮副会長、石崎理事、山田船橋市長代理、
平尾会長、濱本第一科長、花井氏、磯町会長

初のクリスマス会開催

当協会初めての試みであるクリスマス会は12月5日(日)14:30よりJR西千葉駅前の喫茶「サン」に会員32名を集めて実施された。平尾会長の開会挨拶のあと橋口昭八常任理事より来年10月に千葉大学講堂にて行なわれる「日本におけるドイツ2005/6」に係る行事予定の明細が発表された。次いで会員の水野春美さん(医療法人社団 木下会の介護支援専門員)から年末・年始の健康面での注意事項について話があり、臼井日出男名誉会員(元防衛庁長官)による乾杯の音頭で第一部の忘年懇親会がスタート。ボージョレヌーボー、ドイツワイン、日本酒(原米酒)、ビールなどの飲み物、チーズ・ソーセージ・焼き鳥・シューマイなどの食べ物が出されて大いに交流を深めた。宴半ばに新入会員の紹介があり、また今年のオクトーバーフェストに行き来られた布施由未子さんはその時に購入されたドイツの民族衣装で来られており、これを披露された。更に布施さんの話に触発されて、今年のオクトーバーフェストに行き来した川口正光さんのドイツ語・英語を交えた愉快な報告に皆爆笑。

2時間ほどしてから第二部のクリスマス会に移り、今村美也子理事のピアノ伴奏、大河内ロスウィータさん、橋口常任理事、堀江弘隆君の歌唱指導で「縦の木」「聖しこの夜」「野ばら」などを合唱。そして各自持参のプレゼントは福引形式での交換となり、今村さんのお嬢さん、純子さんに福引係をお願いした。案内では、「プレゼントは1,000円程度の品」となっていたが、その倍以上もする品なども混じっており、さらに帰りには「オリゴのおかげ」又は各種砂糖(1kg)の土産もついて楽しい会となった。



今村理事のピアノ伴奏で合唱



参加者の皆さん(一部)後列左から4人目は臼井名誉会員